

島田市地域ケア会議 事前連絡票 集計表

1. あなたの身近に孤立した（独居）高齢者の方はいいますか。それはどのような方ですか。

- ・配偶者を亡くされた方 ・子供が独立した生計を立てている方
- ・高齢世帯で配偶者が亡くなり独居となった方 ・自身で日常生活は送れている
- ・数十年前に夫婦で市外から移り住み、お子さん達は様々な事情で別離し、1年前に夫も亡くされた方
- ・ご主人に先立たれた方 ・生涯独身の方
- ・70歳前の母が独居です（元気）
- ・町内会、知人関係ではない。
- ・探せばいるかであろう。（以前関わった障害を抱えた人たち）
- ・子供さん達は結婚してそれぞれ町外で生活しているため、1人暮らしの生活をしている高齢者がいます。
- ・夫や妻を亡くされた高齢者で、自治会や町内会の行事や役員の選出に協力をしてくれない方が多く見受けられます。
- ・特に直接にはおりません。
- ・精神疾患があり、対人恐怖症の疑いのある人。極端に人との関りを拒絶している。
- ・ゴミ屋敷に住んでいる。若い頃、自分の意に沿わないことを言われると怒鳴り散らすことがあった。未だに近隣の方から怖がられている。自治会独自の災害時の支援者台帳に名前を載せるか話が出たが、町内会から拒絶されてしまう。
- ・親戚が近隣にいたが交流少なく、地域住民とも過去に何度もトラブルを起こし寄り付かない。民生委員も過去のトラブルを知っているためチラシを届けるのみ。1階窓にバリケード張っている。自宅固定電話、携帯電話を持ちたがらない。
- ・近隣、親戚間のトラブルにより地域で孤立状態。様々な提案するも年金も少なくギリギリの生活。認知症あり。
- ・夫が亡くなって子供も別居している方。夫が亡くなった時は少し閉じこもってしまったが、近所の方との交流も多く、近所の方に声を掛けてもらって、今は外出もできるようになった。

2. 孤立した（独居）高齢者に対して、あなたはどのようなことができますか。

- ・安否確認 ・困った事がないか声掛け ・介護保険サービスの提案や利用に向けての手伝い
- ・訪問し安否を確認すること、話し相手になり、困っていることや楽しみや好きなことなどを聞いて、外出する機会を増やせるよう支援していく。
- ・介護サービスを通した生活の見守りと、必要な時に家族（KP）や行政機関等に連絡すること
- ・時々訪問して、体調等を伺う。
- ・母の自宅が車で15分程の所ですので、定期的に通っています。頻回に電話連絡しています。
- ・必要によって訪問（必要な直接支援）・関係機関（舎）への情報の提供
- ・当事者への支援情報の提供
- ・毎月1回高齢者宅を訪問して何か困っている事は無いかなど確認も含めて活動しています。
- ・見守りや支援をしたくても、拒否される方には、外部的に見守るしかなく、支援を受け入れる方には、通院・ゴミ出し・草刈り・買い物などの支援をしていきたい。
- ・今は買物支援を行っていますが、隠れた必要を抱える人をどう探していくのが課題です。この活動をもう少し広げていきたい。
- ・見守り訪問、状況に応じて介入し必要なサービスに繋げていく。
- ・民生委員を紹介し、民生委員と顔の見える関係づくりをしてもらいながら見守り訪問してもらったり、包括による見守り訪問。信頼関係を築き困った時包括が介入できるようにする。何年かかかる人もいる。
- ・電話を持ちたがらない場合は合鍵を預けておける人を探す。預けない場合で、家中施錠されている場合、警察を呼び安否確認することになることを伝えておく。
- ・疎遠でもいいから、せめて一人は身内の連絡先を聞きだせるよう時間をかけ関係を作る。
- ・可能なら地域との交流の場に誘い、一緒に参加してみる。
- ・定期的な訪問。 ・必要なサービスの提供。 ・地域活動や趣味の活動の参加を促す。

3. (独居) 高齢者の孤立に対する早期発見、早期対応のためにどのような取り組みが必要と考えますか。

- ・町内や高齢者あんしんセンターによる高齢者の把握
 - ・町内や市の行事への案内
 - ・地域住民や、スーパー、コンビニ等見守りをする。定期訪問による安否確認で体調など高齢者の異変に気づき、地域包括支援センターへ情報を共有する仕組みが必要だと思う。
 - ・対象者を最初に発見するのは近所の住民だと思うので、そういった情報に対する相談先として民生委員や地域包括があることを知ってもらうための啓発的な活動
 - ・民生委員、町内会役員等の方々の訪問
 - ・地域のつながりをつくる機会を増やす。
 - ・非常事態を考えると訪問や電話連絡等では間に合わない可能性があります。最近は外部サービスを利用した見守りを検討中です。例えば、センサーやカメラなどの遠隔監視、緊急通報型のボタンなど。
 - ・元気なうちは Amazon のデバイスを使ったやり取りも便利で安価で良いかと考えています。
 - ・積極的な普及教育活動（学校教育、社会教教育、様々な場） 広報（私たちは啓発活動しているつもりであるが、住民の多くは支援の制度、提供方法、場などについて知らない。）
 - ・私たち関係機関（者）の『もう半歩、1 歩』の前向きな取り組み。
 - ・地域における『ふれあい活動』の強化（声掛け、サロン、訪問、、、）
 - ・社協では、令和 5 年 9 月から「まちなか保健室」を行っている。既存の通いの場に参加しない人も参加し、家族を亡くした方、参加の場を求めている人などが地域住民とつながる機会となっている。気軽に相談できる場を市内全体で作っていくことが必要ではないか。
 - ・本人と直接話をする中で心配事があれば聞き、場合によっては必要に応じて包括支援センターに情報を伝える。
 - ・民生委員の方と協力して、定期的に訪問などを行い、寄り添うことが大切と考えます。
 - ・主として民生委員が情報収集していますが収集力としては足りない部分があると思います。もう少し町内会や自治会がこれに関与する必要があると思います。民生委員の守秘義務の点で考えていく必要はありますが、必要な方の声が届きにくい点を考えれば何かしらのルールを決め、広げていくことが大切と思います。
-
- ・地域の見守りの目
 - ・地域との連携
 - ・地域、関係機関（新聞、ヤクルト、生協など見守り事業所含む）との情報共有。特に民生委員との信頼関係づくり
 - ・地域の通いの場で情報を得る。親類がわかる場合もある。
 - ・地域住民に夜間電気がつくか、新聞などの郵便物が溜まっていないかなど見守りしてもらう。
 - ・民間の見守りからの情報
 - ・地域との連携。・家族による日頃の観察
 - ・公的サービスからの情報

4. (独居) 高齢者を孤立させないため、どのようなことが必要と考えますか。

- ・ 本人が煩わしいと思っていても定期的な訪問や声掛け
 - ・ 地域でのつながり、町内会や行事に参加することを促していく。趣味や活動で人とのつきあいを大切にする。居場所づくりの支援
 - ・ 定期的な訪問。頑固な方や閉鎖的な方、難聴の方などもおられると思うので、繰り返し訪問することで信頼関係を築いて、生活の状況やニーズを把握していくことが大切ではないかと思います。
 - ・ 自治会、町内会等の催し物の時に誘う。
 - ・ 地域のつながりをつくる機会を増やす。
 - ・ 地域住民との関わりますや、見守りがとても大切と考えますが、遠く離れた家族も地域に任せきりにせず、積極的に様々なサービスを検討すべきと考えます。最近はネット経由での監視サービスも進化して来ていると思いますので。
 - ・ 幼少時期から人との関係性による喜び体験を多く持つ。(教育・しつけ活動) 自己肯定感を持てるよう。
 - ・ 本市が取り組んでいる予防活動の継続と拡大
 - ・ 当事者の強みを表現(発揮)出来る場(機会)を意図的に作る。(特に高齢男性の出番形成)
 - ・ 独居だけでなく、また高齢者だけでなく、困りごとや助けてが言える地域づくり(居場所、相談会の実施等)
 - ・ なるべく家の外に出て近所の人達と話をするように本人に伝えます。時々近所の人達に頼んで、普段の様子を見てもらい何かいつもと違う時は連絡をもらうようお願いしている。
 - ・ 民生委員の方と協力して、定期的に訪問などを行い、寄り添うことが大切と考えます。
- (3と同じ)
- ・ とにかく表に出てもらう事が必要で多くの人とコミュニケーションをとれる場を作っていく。そこに行けば誰かがいて、何かができる。そんな居場所をできるだけ多く作っていく。各町内の公会堂や市役所までもが、いつでも集まれる場として活用していくことが必要と思う。
-
- ・ 本人、家族、関係者との定期的な情報交換や見守り
 - ・ 包括の周知
 - ・ 普段から地域とのつながり作り
 - ・ 孤立している人を把握し、早期から包括や民生委員が介入できるよう連携
 - ・ 緊急連絡先の確保、緊急通報システムなど利用できる在宅サービスの提案
 - ・ 本人が「困った時」を見逃さず介入する体制づくり
 - ・ 独居だけでなく世帯まるごと孤立しているケースも増えている。
 - ・ 地域活動や趣味の活動の参加を促し、外に出る機会をつくる。
 - ・ 民生委員の方の見守りを継続して行ってもらう。
 - ・ 必要であれば、ヘルパーやデイサービス、配食サービスの利用を進める。